

に水びん、みなかねなり、少納言さねむねもちてくる。

〔萬一記〕正安三年十月廿八日甲午、今日大嘗會御禊也。○中次藏人兵部大輔經世持參御手洗。○可爲銀器

之由、女官申之、不可然之由、予下知畢、寛元旨令違失也。

〔嬉遊笑覽〕祭七、寛政の末、品川海晏寺開帳ありて、山上なる銀杏の大木を心として、桐油合羽にて、

大佛の像を造りて、蜜柑籠指の爪は、管笠なり、螺髪は、觀せ物とす。

〔長門本平家物語〕十七、廿九日元暦元年三月か、すけむねもちがさたにて、あたらしき湯ぶねかま

へて、三位中將重衡にゆあみせ奉らんとす、ありがたくぞおもはる。○中又とし十三四ばかりな

る女童のむらさきの小袖きて、かみは、をひし程なるかなものうちたるたらいにくし二入て來

り。○下

〔延喜式〕齋宮、供新嘗料

陶手洗各二口

〔儀式〕踐祚大嘗祭儀

頒下諸司諸國官符宣旨例。○中

太政官符諸國每國有符

應造新器。○中尾張國○中 越十六口○中 參河國○中 已豆伎越各六十口○中 備

前國○中 越州口○中 已上人給料○中

以前得神祇官解僦爲供奉大嘗會、應須雜物并潔祓具如上件者、國承知一事以上依例行之、事有期

會、不得闕怠。

〔延喜式〕主計凡左右京五畿内國調、一丁輸錢隨時増減、其畿内輸雜物者。○中 越十口、受五升、

畿内 和泉國行程上一日、調○中 越八口 東山道 美濃國行程上四日、調○中 越十口 山陽道